

読みの力の改善にマルチメディアデイジー教科書を活用して

～読みに困難さを抱えるA児の変容から～

和泉市立国府小学校 井阪幸恵

1. はじめに

ディスレクシアは、英語圏では10%から20%といわれているが、日本では単独の調査がない（Dinf ホームページより引用）。本校の現状を見ると、「正しく見る」「文字と音を合わせる」「読む」のいずれかの過程でつまずきを持つ子どもたちは多く、その力の弱さが「書く」「記憶する」ことにも影響して学習低下につながると考えられる。

本校では、平成25年度から「見る力テスト」を、平成27年度から合わせて「聞く力テスト」を実施している。各テストの内容は次の通りである。

【見る力テスト】

①視覚認知テスト

（形を正しくとらえる力があるか。文字や算数の図形をとらえる力などに関わる。）

②模写テスト

（形を見て正しく書くことができるか。漢字を正しく書く、図形を描くなどの力に関わる。）

【聞く力テスト】

①ひらがな聴写テスト

（言葉を聞いて正しくひらがなの特殊音節を書くことができるか。文字と音を合わせる力、書きの力、記憶する力などに関わる。）

②カタカナ聴写テスト

（言葉を聞いて正しくカタカナの特殊音節を書くことができるか。カタカナの定着、文字と音を合わせる力、書きの力などに関わる。）

【漢字テスト】

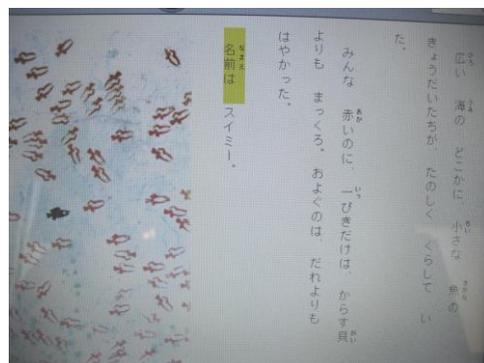
（中学年では2年生程度の、高学年では3年生程度の漢字の定着、正しく見る、文字と音を合わせる、書きの力、記憶する力などに関わる。）

この結果から、1.「正しく見る」「書く」「記憶する」などに関わる指導では、ビジョントレーニング（北出勝也氏）やコグトレ（宮口幸治氏）の指導を取り入れている。2.「特殊音節の習得」の指導では多層指導モデルMIM

（学研）を活用している。そして、3.「読みの流暢性」「語彙力」の指導においては、マルチメディアデイジー教科書（以下デイジー教科書と略す）

（資料1）が最も効果的であると考へ指導に活かしている。

この「読みの流暢性」「語彙力」の弱さは、知的レベルに関わらず起こるため、通常学級で使用する環境を整えればかなりの子どもたちの困っている実態を改善できるものと考えられる。デイジー教科書の有効性をお伝えすることで、その活用が広まり、子どもたちが安心して過ごせる環境が整う一歩になればとこれまでの実践内容を紹介する。



「マルチメディアデイジー教科書」は音声を聞きながら、ハイライトされたテキストを読むことができる。

2. 目的

転勤によって出会った A 児は読み書きに大変困難さを持つ児童であった。当時は 3 年生。離席、教室からの飛び出しのほか、暴言やトラブルが絶えなかった。その原因は「読み書きの困難さ」にあった。国語の教科書を開いたとたん、「わっ。」と声を上げながら目を背ける様子が見られた。文字が動いて見えて文字を認識できない状態であった。

A 児の状況を改善するためには長期の展望が必要であった。国語と算数を支援学級で学び、「読み書きの困難さ」の改善を目指した。

3. 手立て

(1) 3 年生 2 学期から 3 学期

1. まず「見る力」をビジョントレーニングで向上させる指導を行った。紙媒体の文字を拒否するため、パソコンや iPad を利用しながら指導をすすめた。
 - ア. パソコンソフトでは「脳機能バランサー」「ビジョントレーニング 2」（いずれもレデックス）を利用して「脳機能」や「視覚機能」の向上を目指した。
 - イ. iPad では、「視覚機能」「視覚記憶」「見通し力」の向上につながるアプリを用意して取り組ませた。また、算数アプリ「わかる算数〇年生」（がくげい）は文章の読み上げ機能があり、1 年生からの復習ができたので基礎力強化に役立った。
 - ウ. 木製パズル「アポロ」（ウッドペッカー）、「ラッシュアワー」（シンクファン）などのパズルやパズルゲームを利用し、「空間認知」「見通し力」などの向上を目指した。
2. 特殊音節のつまずきは大きく、練習の必要性を強く感じながらもショートステップで行った。多層指導モデル MIM（学研）のプリント課題を毎日少しずつ取り組ませた。
3. デイジー教科書は長文であり、なかなか取り組まなかった。

(2) 4 年生の 1 年間

1. 「見る力」をビジョントレーニングでさらに向上させる指導を行った。

iPad は主に学習のみに利用するようになっていった。少しずつであるが、漢字ドリルに取り組もうとするようになった。できることが増え、自信につながり、友だちと遊ぶ機会が増えた。算数や漢字などのマンガ読み物を読むようになっていった。

 - ア. 視覚機能の弱さはまだまだ残っているため、ビジョントレーニングの「数字タッチ」「ランダム読み」などに毎日取り組ませた。体幹運動にも取り組ませた。
 - イ. iPad では算数アプリ「わかる算数〇年生」（がくげい）を何度も繰り返し学習した。4 年生(下)まで学習できたときに、通常学級のみんなどと同じ内容を学習できていることを知り自信につながった。また、地図アプリ「あそんでまなべる日本地図パズル」（Digital Gene）を「くもんの日本地図パズル」（くもん出版）と並行して繰り返し取り組んだため、社会科のテストで 100 点を取れたことも自信につながった。
 - ウ. 「空間認知」を向上させるため、パズルは平面から立体へレベルを上げ、「賢人パズル」（エド・インター）「ロンボススペースプラネット 200」（ファンタジーランド）などを楽しみながら集中して取り組んだ。
2. 特殊音節のつまずきはなかなか改善が難しいため、多層指導モデル MIM（学研）のプリント課題を引き続き利用した。漢字ドリルで読み方を練習した。
3. デイジー教科書は 1 ページ分だけをできるだけ毎日読むように指導した。

(3) 5年生の1年間

1. 視覚機能が向上してきたこと、みんなと同じことができるという自信が出てきたことから、漢字ドリルを自ら全部書き込むようになった。漢字の形はゆっくりとていねいに書くことでほぼ正しく書くことができた。

算数でも、問題数を減らして当該学年の内容に取り組んだ。数感覚があり、計算が速くできるため自信を深めた。理科や社会科のテストは問題文の代読をすることで80点程度取れるようになった。

学習につながるマンガ読み物が好きで、知識を広げていった。

- ア. 毎日一つはビジョントレーニングの課題に取り組み、視覚機能を高めるようにした。また、COGET（三輪書店）も毎日の課題にして認知機能の向上を目指した。体幹運動をCOGOT（三輪書店）に切り替え、協調運動のトレーニングを毎日の課題にした。

- イ. 紙媒体の課題に取り組むことに抵抗がなくなった。漢字ドリル、国語のワークシート、算数プリントなど、書き込みを減らす工夫をしながら提示することですすんで学習した。学習内容は前学年までの復習を繰り返しながら、当該学年の基礎・基本を身につけさせるようにした。

学習内容が通常学級のみならずと同じであること、場合によっては既習であるために友だちにアドバイスをできることで毎日楽しく過ごした。

- ウ. 立体パズルを時々楽しむことはあるが、リラックスタイムに将棋を楽しむことが多くなった。

2. 漢字の読みを徹底するようにした。この年度は同じ支援学級に1年生が在籍していたため、あてはまる特殊音節のカードを選ぶゲームを一緒に行った。楽しみながら特殊音節の定着につながった。
3. デイジー教科書の利用は、5年生の前期は4年生のときと同じペースで利用した。

後期から、国語のワークシートへの記入のために毎日2ページ程度をしっかりと読み込むように指導した。デイジー教科書は読みスピードを変えられるので、本人の話す速さと同じくらいの+2～+3で読んでいた。また、背景色は薄い黄色しか受け付けなかった。文字の大きさはやや大きめにしていた。

自分に合わせた環境で「読むこと」を経験し続けるうち、A児に大きな変化が現れ始めた。時間を見つけては読書をするようになったのである。

(4) 6年生1学期

1. ビジョントレーニングは「数字タッチ」中心で「集中力」を向上させるために行い、コグトレのCOGETやCOGOTを毎日しっかりと行わせるようにした。落ち着きが増し、考えて行動できるようになってきた。

理科や社会科などのテストで、
「代読はいらない。もう読める。」

と申し、すべて通常学級で受けるようになった。

2. 漢字ドリルを書くとともに、道村式漢字カード（道村静江氏）を使いながら漢字の「読み」と「書き」の定着を目指した。特殊音節のカード取りゲームを時々行って復習し、漢字イラストカード（山田充氏）でもカード取りゲームを行った。楽しみながら特殊音節や既習漢字の定着ができてきた。
3. デイジー教科書は、学習の初めだけ利用する程度になった。設定はいつも同じで、速さは+2～+3、背景色は薄い黄色、文字の大きさはやや大きめであった。

4. 結果と考察

A 児が6年生になって言い出した、
「代読はいらない。もう読める。」

という言葉がこれまでの取り組みの結果を表すと考える。A 児は指導を続ける中で、自分なりにできることを分析していた。

「今はちゃんと見えるようになった。頭の中でだったら文章を読むこともできる。でも、それを声に出して読もうとしたら無理。書くことも無理だ。」と表現した。

これは、ビジョントレーニングによって「見る力」が強化され、日々の学習の中で取り組んできたことが影響し合い、大きな力となったことは言うまでもない。その上で、デイジー教科書を集中的に利用したことが「読む力」を保証したものと考える。また、自らを分析して「話す力」ができたのは COGET の取り組みがあったからであろう。

デイジー教科書は他の児童も利用している。個人の状態によって変化の実態はそれぞれであるが、集中的に利用すると2ヶ月程度で「読みの流暢性」「語彙力」に改善が見られる。今読んでいる部分がハイライトされることで文字と音が同時に情報として入ってくる。それまで耳だけ、あるいは目だけの情報に頼っていたものが「読む」という活動に変わる。弱さを抱える児童が初めてデイジー教科書を手にしたとき、

「こんないいものがあったんだ！」
と感嘆の声を上げることもある。

学校では、「読む」という活動があらゆる場面で起こる。「読めない」という実態を持つ児童には大変厳しい場所であることを理解しなくてはならない。A 児の3年生の頃の様子から、そのつらさをうかがい知ることができる。すべての文章を読み上げできるような電子媒体が身近にあることが最善であるが、まずはデイジー教科書を使って楽しく学習できる環境が整うことが必要であると考えられる。

5. おわりに

A 児は、6年生の夏休みは毎日のように近くの図書館に通い、読書を楽しんで過ごすことができた。最近では歴史の本に興味を持っている。読むことの楽しさを知り、毎日落ち着いて過ごすことができています。

今後は、本人が無理であるという「声に出して読むこと、書くこと」が課題である。ただ、ワークシートやテストでは既に声に出して読んだり書いたりすることができています。それを朗読、作文というレベルまでに引き上げたい。6年生の残りの日々を、楽しみながら表現へと導くことを目標としていく。

6. マルチメディアデイジー教科書について

(1)インターネットで「マルチメディアデイジー教科書」

または「エンジョイデイジー」で検索する。

(2)申請方法を確認して申請する。

(3)パソコンに「デイジーポッド」をダウンロードする。

またはiPadに「ボイスオブデイジー」か「イーリーダー」をダウンロードする。

(4)メールで届いたログイン名、申請時に登録したパスワードを入力して「マルチメディアデイジー教科書」を受け取る。

*詳しくは(1)の画面で確認することができる。

